

アを維持していくことに注力していくことになるのではとしている。

決算内容のあらまは次のとおり(カッコ内は前期比%)

▽売上高755億9,558万円(88.58%)

▽売上総利益53億4,885万円(96.63%)

▽販売費43億5,910万円(103.99%)

▽営業利益9億8,974万円、(73.65%)

▽経常利益10億9,427万円(73.19%)

▽税引前利益11億758万円(54.79%)

▽当期純利益6億79万円(53.90%)

非鉄全連青年部会見学会 橋本アルミなど見学

非鉄金属リサイクル全国連合会の大阪・名古屋・高岡3地区の青年部会は21日(土)、大阪で見学会と懇親会を開催、約40名が参加した。

午前11時、住之江区にある橋本アルミ住江流通センターに集合。橋本アルミで実施されている合理化の取組み、経営計画などについての簡単なレクチャーの後、工場内を見学した。ペーラーマシンの導入などの機械化をはじめその他も徹底的に合理化され、月800トンの取扱量を通常操業では2人で処理しているとのこと、一同は感心しながら機能的に整頓された工場内を見て回った。

昼食をはさみ、次は神戸港にある神戸ポートリサイクルを見学した。同社は神戸市によって策定された環境政策「エコテック21構想」のモデル事業として、2002年4月に設立。自動車リサイクル事業に加え、木くず、廃プラスチック、廃タイヤを処理し、コークスなどの代替品としてリサイクル

している。今回は金属以外のリサイクル処理施設を中心に見学したが、担当者に熱心に質問する参加者の姿が多く見られた。

最後は浪速区に戻り、関西有数の大手問屋として知られる橋本金属の事務所とヤードを見学。建物自体も60年以上の歴史があるとのこと。住宅にも近い街中に大きなヤードが存在することに驚きを感じたと話す参加者もみられた。

午後7時からは大阪市中央区の「味園」へ移動、勉強会と懇親会が行われた。勉強会は大阪青年部会のメンバー、橋本健一郎氏が講師を勤め、行き過ぎたレーガノミックスの問題点と世界経済の現状、そして今後の中国と日本の銅・銅原料の行方についてのレクチャーが行われた。講演後は懇親会へ。大阪非鉄金属商工協同組合・中川富夫理事(中川商店)が「青年部会同士、切磋琢磨することで業界をますます盛り上げていきましょう」と乾杯の挨拶を行いスタート。参加者は頻繁にお互いのテーブルを行き合い、大盛況のうちに森規貴氏(森金属)の一本締めで全ての日程を終了した。

故銅市況 銅建値が1万円安の35万円となり軟調に推移 銅系と青銅系は8千円安、黄銅系は1万円安 精錬M社ピカ線プレス物買値は28万5000円

故銅市況は、LME銅相場安と為替の円高・ドル安を受けて国内採算が値下がりし銅建値が1万円安の35万円となり軟調に推移している。

21日入電のLME銅相場は112ドル下落し3.151ドル、NY銅相場も5.40セント下落し141.40セントとなった。為替は前日比1.01円、円高・ドル安の94.17円、NYカーブは20ドル安で、国内採算値が1万4,400円安の33万3,600円となって関税を1万5,000円とするとプラスして34万8,600円となったことから銅建値は1万円安の35万円に改定された。

為替動向としては『東京外国為替市場の円相場は米国政府が最大でシェイグループの普通株式を40%ほど取得する方向で検討しているとの報が米国金融システムの安定につながるとの見方を受

けてドルが売られて前週末比1.07円、円高・ドル安の93.01~04円に推移した。(銀行筋)』

精錬M社は2月後半のピカ線プレス物買値を前回比1万円高の28万5,000円とした。

今年の銅建値は33万~37万円レンジで低位安定となっているが「上がるという裏付けが無く下がる余地は、まだまだあるので今の動きはマシと言える」「ただでさえピカ線や上銅の入り具合が悪いのに銅建値が下がって益々入りが悪くなりそうだ。難儀なことだ。砲金系統はさっぱり入ってきていない」「荷動きは閑散状態が続いている。最近では10トンほど積み合わせて入った日があったが、それ以外は小口しか入らない」(各大手問屋)との声が聞かれる。

中国経済が今、活発に動いている。中国は起爆